1)「おかしな(あのえない)絵はどちらでしょう？」と、左右の絵を評価。
2)おかしい方の絵のおかしい部分に×をつける。

a)直線で描かれた立体の実際に在るはずの形を想起し、描線の矛盾を発見する視知覚的評価。
2)明らかにあり得ない描画なので分かり易いが、矛盾を発見する体験そのものが貴重である。

特定用具:不要

おかしなえは
どちら?

おかしな ところに
×をしよう。